



## コオロギの子どもは何を食べるの

### コオロギは何でも食べる

コオロギは、前の年の秋に、土の中に産みつけられた卵が、5月なかばあたりにかえり、幼虫が土の中から出てきます。幼虫は、体の色も形も、親のコオロギとほとんどかわりません。初めは羽がありませんが、だっ皮をくり返すうちに、小さい羽が生えてきます。

コオロギの幼虫は、昼間は、かれ草や石のかげ、小さな土の穴などにかくれてすごし、夜になると、あちこち歩き回って、ミミズや、小さいこん虫の死がいなどを見つけて食べています。やわらかい草のくき、畑に落ちていたキュウリやナス、トマト、野菜の切れっぱしなども、コオロギのえさになります。

### コオロギは、本当は肉が好き

コオロギは、どちらかというと、肉食のこん虫ですが、植物性のものも食べます。

コオロギは、もりもりえさを食べて、きゅうくつになった古い皮を、ぬいで大きくなることをくり返し、8月ごろには、りっぱな大きい羽をもつ、成虫のコオロギになります。さなぎの時期はありません。コオロギを飼うときは、ナスやキュウリといっしょに、にぼしやかつお節などを、必ずあたえましょう。

### コオロギは、おとなも幼虫も同じものを食べる

おとなになったコオロギは、幼虫時代と同じような所にすみ、同じようなものを食べています。だから、シバザクラや、かれ草の下などをのぞくと、コオロギの成虫や幼虫が、いっしょに見つかることが多いものです。（監修・中山 周平）

